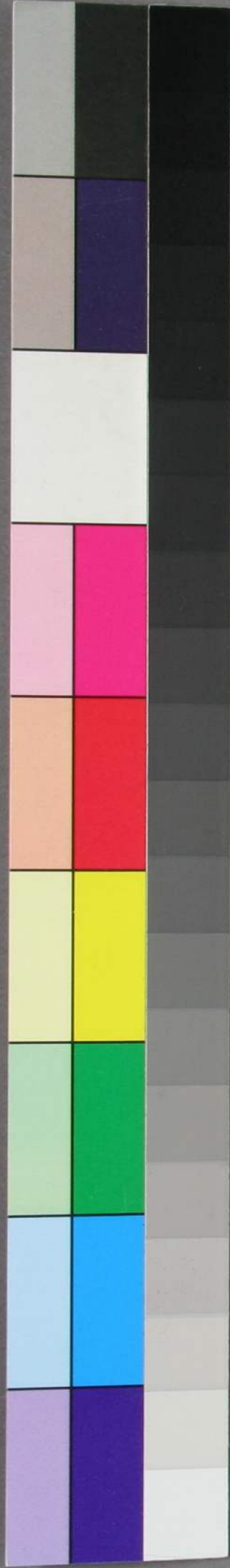


五十組之記

禮

名橋香	三島香	歲暮香	初冬香	菊花香
戀題合香	三壺香	玄冬香	冬月香	替佳香

多9
1938
33



移9
1338
卷 33



五十組之内 禮

柔合香

替住吉香

初冬香

冬月香

歲暮香

玄冬香

三島香

三土壘香

名橋香

急題合香

茉莉花香

香四種

黃花
三色德内一色成

紫花
右同以

白花
右同以

三花香

五花香

七花香

九花香

三花香

五花香

七花香

九花香

菜花とて

百に徳成

右試紙より出香七包お支燈出を試み今
札より記紙をよみすりて字紙より紙の香出
るるに名目あり左のこゝ

黄花とて

金と書

紫花とて

蘭と書

白花とて

霜と書

又客菜花ハ初客多れ後書金一紙も
盡く書金一中よりつれハ露と書又本香
には黄葉白の二つ詩を書左のこゝ

終り黄死多れ

鄱縣村間皆潤屋

同紫花多れ

蘭蕙花嵐摧紫後

同白花多れ

蓬萊洞月照霜中

左のこゝへ出香の下へ書るゝ客の生より

記の通子待亭と書左のこゝへ

初冬多れ

此花開後更無花

終冬多れ

此花開盡更無花

二月六日の内に出れ 我為の葉の白家より

三月六日の内に出れ 右詩歌ウ斗

記の通子書年一 点々柔花二点

黄紫白花より二点つゝ系する多代記の

西へ移りて左の正し

菊尾香之記

白紫系系黄黄 蓬萊洞月照霜中

名 白紫露紫黄黄 霜 全

名 後白白黄紫黄 蘭 一

我高のまゝの白ありし
幾代つゞく同

月日 出香 名乗

記録是より准する

山形寺子年表分木子
...

凡6 止本 分表

...

香三種 香

松風香 香

月香 右同

一金香 香

右試好くして丁金の二色と結ひ合松凡月の
四色の香と申文二色と結ひ合以上六色と
三組と一組とつとて結ひ合二組
いささか南と申と記録するも南と不
南の不書札折紙左のこころ

月松風と書い

逆
忘草の花折紙

松風月と書い

順
忘草の花折紙

松風と書い

松凡の花折紙

月と書い

月の花折紙

丁金と書い

丁金の花折紙

右に表常のこゝ裏右の各同ありし
 其人前五枚つあゝ一座入用ハ三枚
 して入りり入替る時の方
 五枚つ有るは魚のち記の面
 神々可考左の

琴住吉香記

松風 月 松風 不金

櫃

志草送 一全

四

櫃

志草 順 志草 送 一全

全

月日

出香 名乗

記録是子頃迄年

初冬香丸名表 報師を謝す

香三種の表 新方書

嵐 一色試

雲 右同 一色試

客 一色試

右試終るく嵐雲の六色とむ文内二色は
客香を加く五色して煙をばるる雲嵐
の敷よりく中後右目あり左の

嵐の香多め出れり 落葉を書
雲の香多し出れり 時雨を書

嵐雲三種より嵐先を書 木の葉を雨を

雲先を山を 村時を

全の人の初冬を書 女の人の小春を書 其
外の敷を雨を 記録左の

初冬香之記

雲嵐嵐雲村時

全名雲嵐嵐嵐村時三

名雲嵐嵐嵐村時冬

廣重月日出香名集

記録之順

初令香文記

香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名

香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名

香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名

冬月香 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名

香四種 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名

霜 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名

雪 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名

冰 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名 香名

月ごとく

一包俵に試

右試法より出香十包を交りて試み合れ
お角一板試よりより香も各礼お角一各の
香と一の香とゆえん一とゆえの香と
おの下に書其下に板書角一一の香と

お遠くよりおの香と書角一三の香と
お遠くよりおの香と書角一其下に板
お角一金の入るより板書角一の香と
おの香と

客香と金箱とゆえ

油のくさくさしたきりやう年し

月を氷くくおろすくか

同定をすい

細くく有明の月とるもやうし

星よりふらふらきりきり

客香氷く雪い 出香

山の井のしきり水や氷くん

やう月けおのくん

哥左のしきり 高江の西よりけりきり左

のしきり

行利号上... 出香 名茶

岁暮香

香四種

年

月

日

右同

月月冬と書ハ

山家は歳暮と書

客月月と書ハ

海邊は歳暮と書

日冬日と書ハ

除夜の歳暮と書

日日冬と書ハ

市中は歳暮と書

客日日と書ハ

驛中は歳暮と書

年月日と書ハ

歳暮の迷懐と書

年日月と書ハ

歳暮の懐と書

年月日と書ハ

閑居の歳暮と書

年月日と書ハ

川邊の歳暮と書

日月年と書ハ

旅宿は歳暮と書

日年月日

雪中と歳暮

右如九種の名目ハ時々ありて書付たり
後の名目六種ハ後よりありて名目あり
あるる記の面々往々ありて左の如し

年月日

海峯園新書

歳暮香之記

年月日 歳暮 市中歳暮
年月日 年内立春 園路歳暮

名 日日月月 年内立春 園路歳暮 八

名 ウ月日月日 年内立春 六

月日

出香

名乗

三星つて付、数も三星より一点清き

たきの、四五とも三五とも、右に香は

意、

氷封水面閑無浪、雪點林頭、見有花

古の侍の意、今の人、臘月

獨興、書撰記の面々、能く考たのし

玄冬香之記

林水水水林雪

名 林水水水林雪 見有花 臘月獨興

名 林雪水水水林 見有花 五

三島香

香五種

巖島

江島

竹生島

右同

右同

春 二色俵に蔵

舟 一色俵に蔵

右試香三種終りて先三島の香三包おき
内一包取各香二包舟の香一包上罨おき
焚出申す終りて銘しよに記紙に書附申す

ちり先本香と記録しりて次後

中と書申す 春島の香いつと春の香と満

千石と書 最島不南の雨と書 舟の香不南

ハ風と書 二種と不南ハ雨風と云 四種と云

不南ハ各香二種と風風ハ外を雨と云

江の島の香出れは右同の竹生島の香出るとい
る香を銅和波夕和波と書外は右同の
る記の西を能く了る左の二を

三島香之記

ウ舟最島ウ

島

島

島

名 満沙舟最島下

全

名 凡雨 雨凡

名 満沙凡雨下

月日 出香 名乗

記録是より順を今

山椒香... 三土香...

...

...

...

...

三土香

此組ハ青と賀正の香より香三種にて

一種と蓬菜と各付一種と方丈と各付

各三包つ一種と瀧石と各付一包付也

試り蓬菜と方丈瀧石の海外の三品と

いにて仙人の住家より 弄りてきて組

香しき

右に試十粒香のしきりみり三番のみ

形は三瀧品よりあり六種のみ准しきり

強しき名乗残きりし物に記録しり

南より在りたる香はもは試のしきりてはひき

りり各南より入りて四品にてありては

草子葉方丈のしきりては文内一色に各香入り

ちて文内香しきりし物に記の西に結して

おのしきり

三土靈香之記

方方蓬蓬流方

名蓬蓬於方瀛蓬

三土

名蓬於蓬方瀛於

三土

月日

之香名乘

記尿先子准在年

名橋香

香四種

三河八橋て 罌て 俵内一色試

木曾橋て 右同り

佐野の船橋て 右同り

長柄の儀とて 一色依成

右儀終る本香十包と打交類出をも
試と合れとて記紙をも中魚中終る
如孝中記録は各目と書附在所丁中
依左の名目あり

三河八橋と三種と中遠と

鵜の橋と書

本弓材橋と三種と中遠と

雲の材橋と書

佐野の船橋と三種と中遠と

久米の岩橋と書

長柄橋と中遠と

紅葉橋と書

扱各目之下と取書角今の人と親目の長

揚々去はゆふの浮橋と去各長柄橋の
 場、銘くすの所を明至て南へ入る
 空の玉橋と書不南、長柄橋と書金上取
 いちい年を教入る、其外記面を能く
 う考左のて

名橋香之記

橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋

名 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋

名 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋 橋橋

月日 出香 名乗

瀬田橋全

記原是子煩多年

惠題合香

香六種

逢增香

三包內包試

待恨香

右同

忍通香

右同

別思香にて 右同如

契悔香にて 右同如

不逢香にて 百包 徳正歳

右試焼くて出香十包の一字つて千ニ字合
十包とて右十包とて文内一包ぬき不逢

香一包とて又又文十種とて出香一
中焼くて本香の丸の出の香を書局格に
中の丸また二種二名とてたての思通香
別思香とて一字つて千とて思別香と
書の丸とて又又の香の上の字と書

了後の香の下の字と書年一々八二
 の香の如く初と途と書後と増と書の如く
 先と進とあり高紀の表と能く書き左の字

恋題合香記

別待 逢 不逢 思 増 辨 恨 悔
 別 待 逢 不逢 思 増 辨 恨 悔

名 別待香 思増香 恨悔香 全
 逢不逢香 思増香

名 別思香 悔不逢香 恨通香 冒
 契逢香 思辨香

月日 出香 名乗

記原是子順とあり

淡の香の下の字の古字の八

汗脚の字の下の字の古字の八

月見の字の下の字の古字の八

永 永の字の古字の八 留

永 永の字の古字の八 全

